

村民アンケート（中学生対象）
結果まとめ

8月22日

伊平屋村DX推進計画 村民アンケート（中学生対象） 概要

1. 実施内容

伊平屋村DX推進計画を推進するにあたり、デジタル技術の活用に対する伊平屋村の中学生の意識や、その活用の実態について、アンケートにより調査・分析した。

2. 時期

2024年 7月26日（金） ～ 8月9日（金）

3. 対象

伊平屋村の中学生全員（伊平屋中が37名、野甫中が1名、計38名）

4. 方法

オンライン アンケート形式

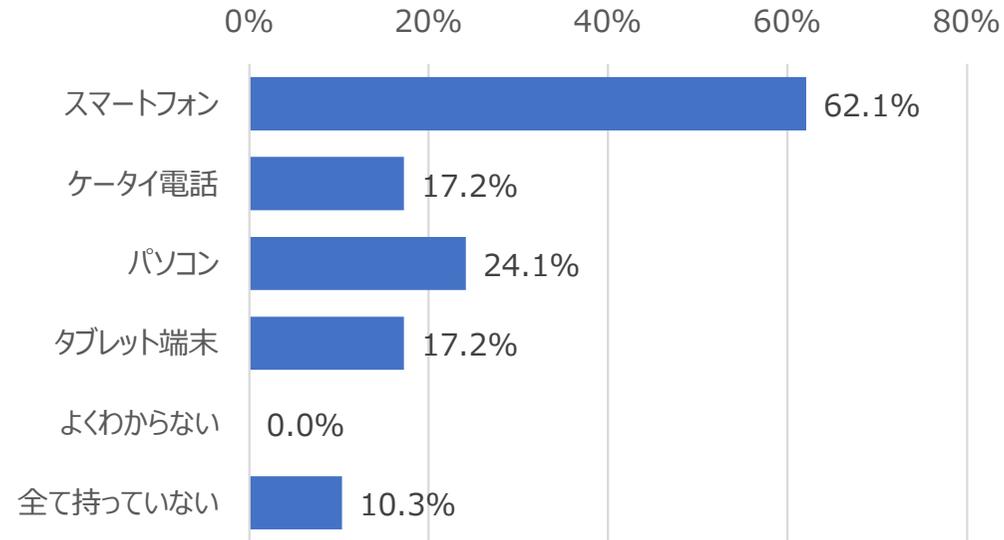
5. 回答数・回答率

有効回答数 29件の回答
回答率 76.3 % : 29/38

性別	人数
男子	15 名
女子	14 名
計	29 名

1. 情報通信機器の所有率について

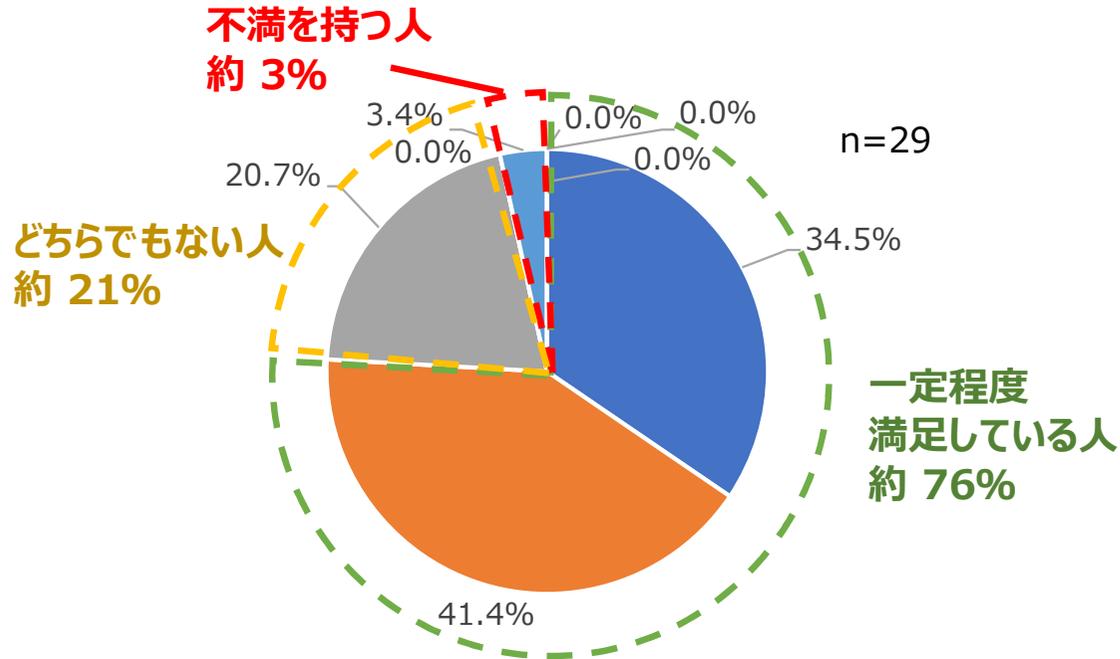
1. 中学生の情報通信機器の所有率



- 中学生のスマートフォンの所有率は約6割
中学生にも、スマートフォンが普及してきている。
※ 中学生には、タブレットが1人1台配布されている。

2. 自宅のインターネットの通信回線について

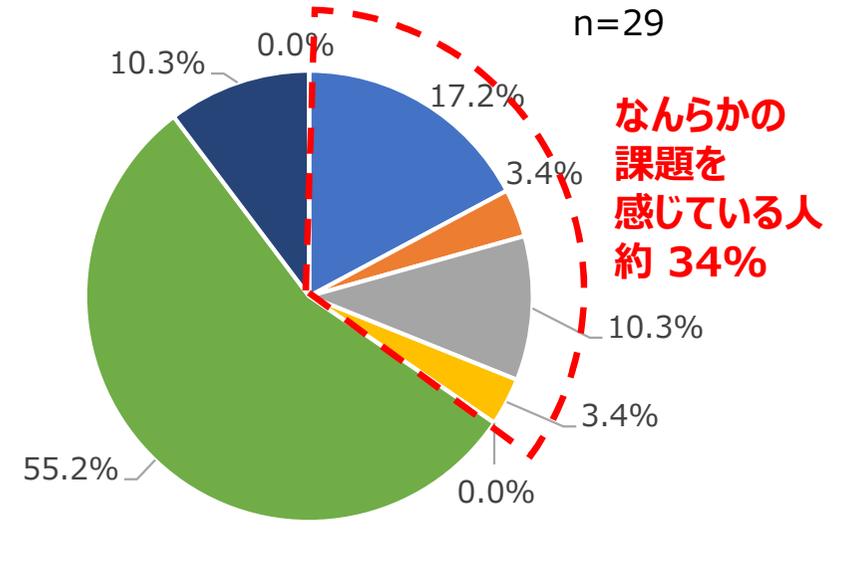
1. インターネットの通信回線に関する満足度について



- 大変満足している
- 満足している
- 満足でも不満でもない
- あまり満足していない
- 不満
- インターネット回線を使っていない
- よくわからない
- 不明

- インターネットの通信回線に関して
インターネットの通信回線に不満を持つ人はほとんどいなかった（約 3%）。

2. インターネットの通信回線で改善して欲しいことについて

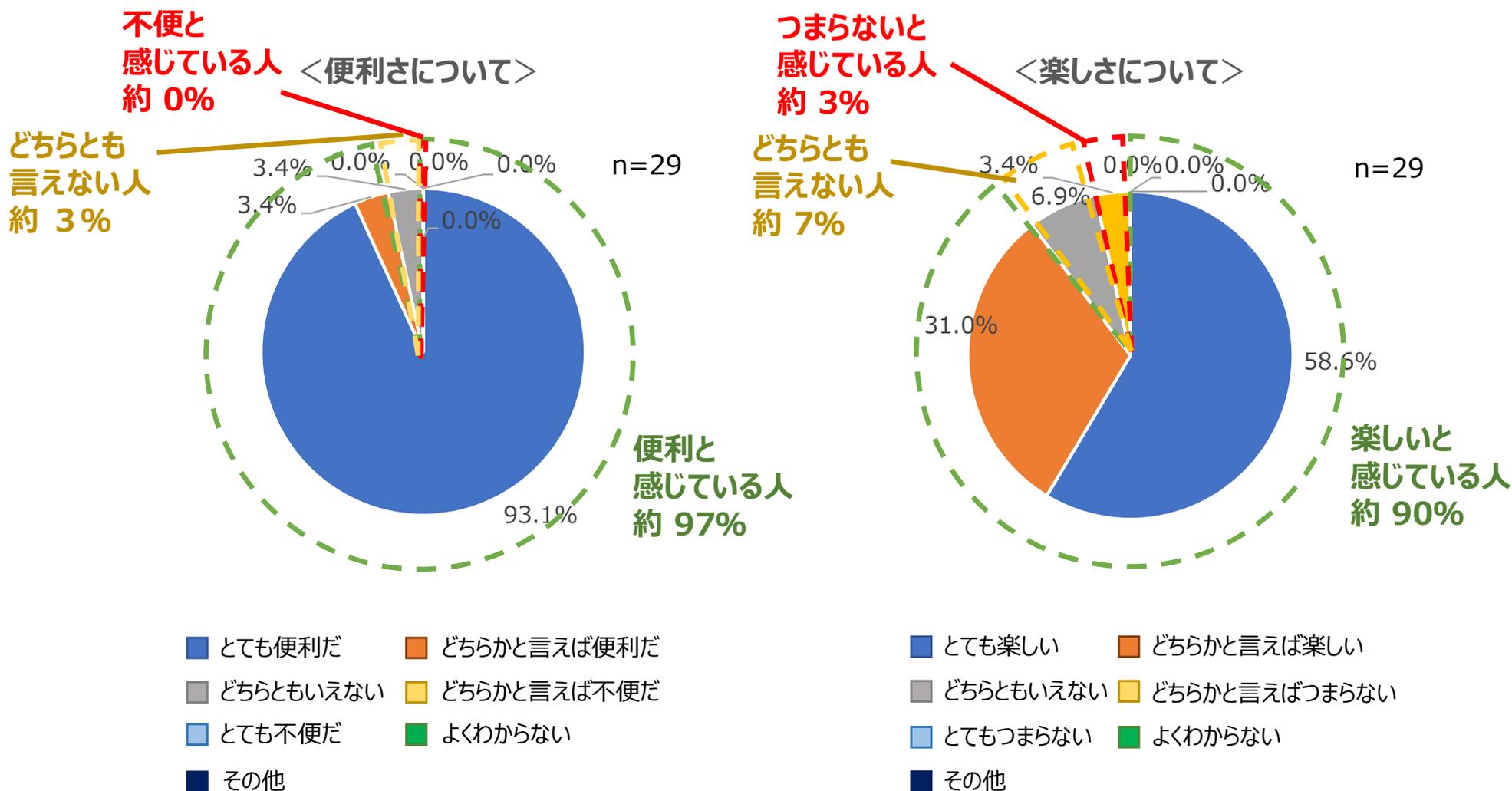


- そもそもつながらない
- 通信がよく切れる
- 通信速度が遅い
- 通信料金が高い
- 希望する回線が自宅で使えないこと
- 特にない
- よくわからない
- 不明

- インターネットの通信回線に関して
通信回線に関する満足度（左のグラフ）について、不満を持つ人はほとんどいなかった（約3%）が、なんらかの課題を感じている生徒は3割程度いる。

3. 学校でのタブレットやインターネットの利用について

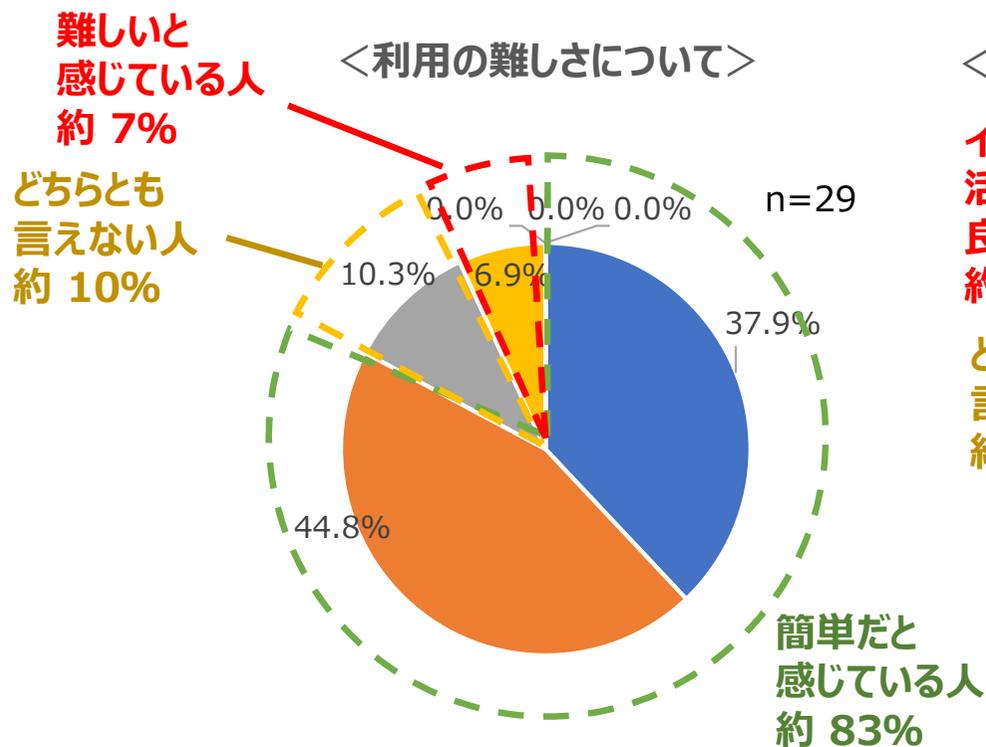
1. 学校でのタブレットやインターネットを利用した授業について感じていること



➤ 便利さについて
 ほぼすべての生徒 (約 97%) が便利と感じている。

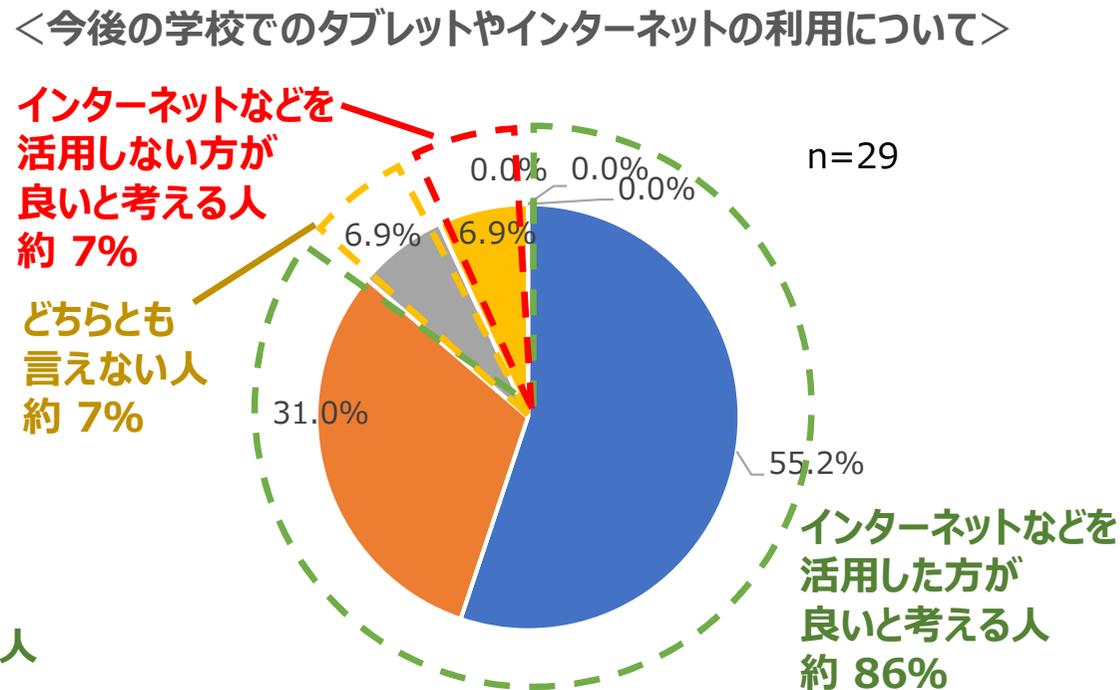
➤ 楽しさについて
 ほぼすべての生徒 (約 90%) が便利と感じており、つまらないと答えた生徒はほとんどいなかった (約 3%)。

1. 学校でのタブレットやインターネットを利用した授業について感じていること (つづき)



- とても簡単だ
- どちらかと言えば簡単だ
- どちらとも言えない
- どちらかと言えば難しい
- とても難しい
- よくわからない
- その他

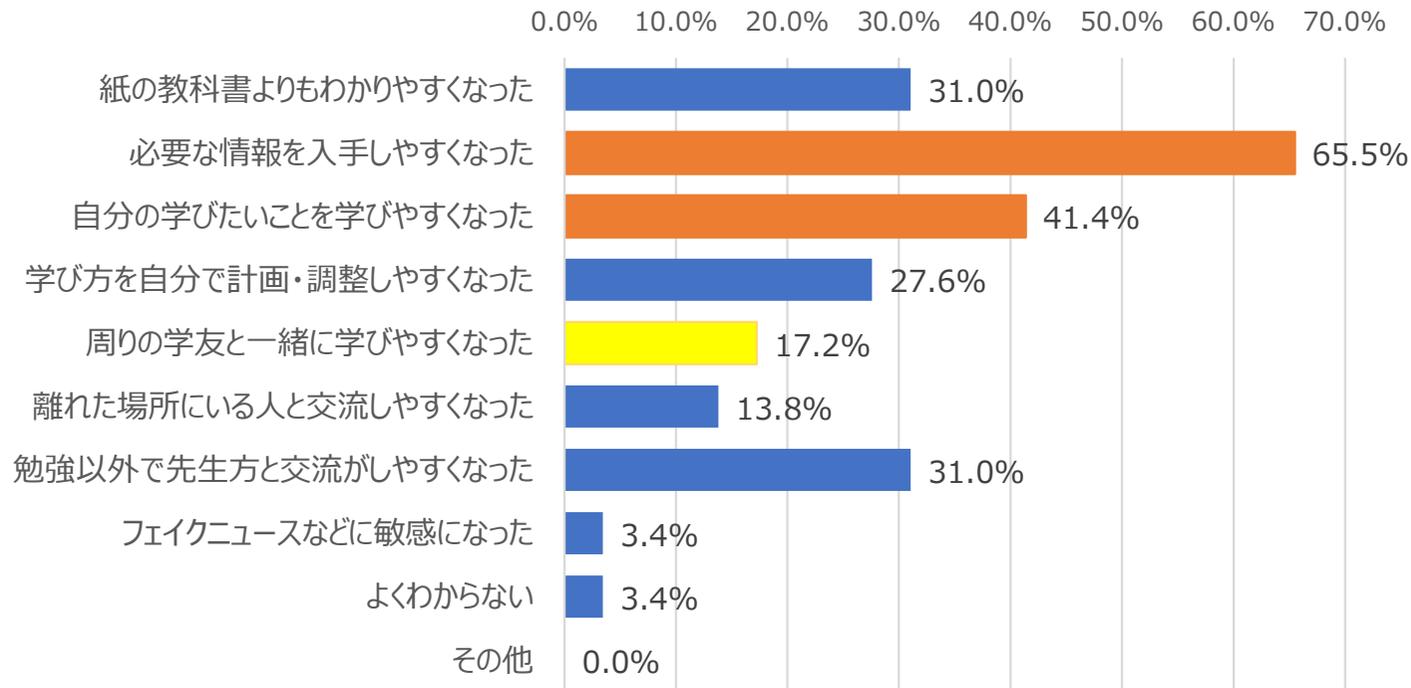
➤ 利用の難しさについて
ほとんどの生徒（約 83%）が簡単だと感じている一方で、難しいと感じている生徒が若干名（約 7%）いた。



- 様々なことで積極的に使っていくべきだ
- 機会があれば使ったほうがよい
- 使ったほうがよいとも使わないほうがよいとも言えない
- 必要がなければ使わないほうがよい
- 必要でも使うべきではない
- よくわからない
- その他

➤ 今後の学校でのインターネットなどの利用について
ほとんどの生徒（約 86%）が、今後の学校でインターネットなどを活用した方が良いと考えている。

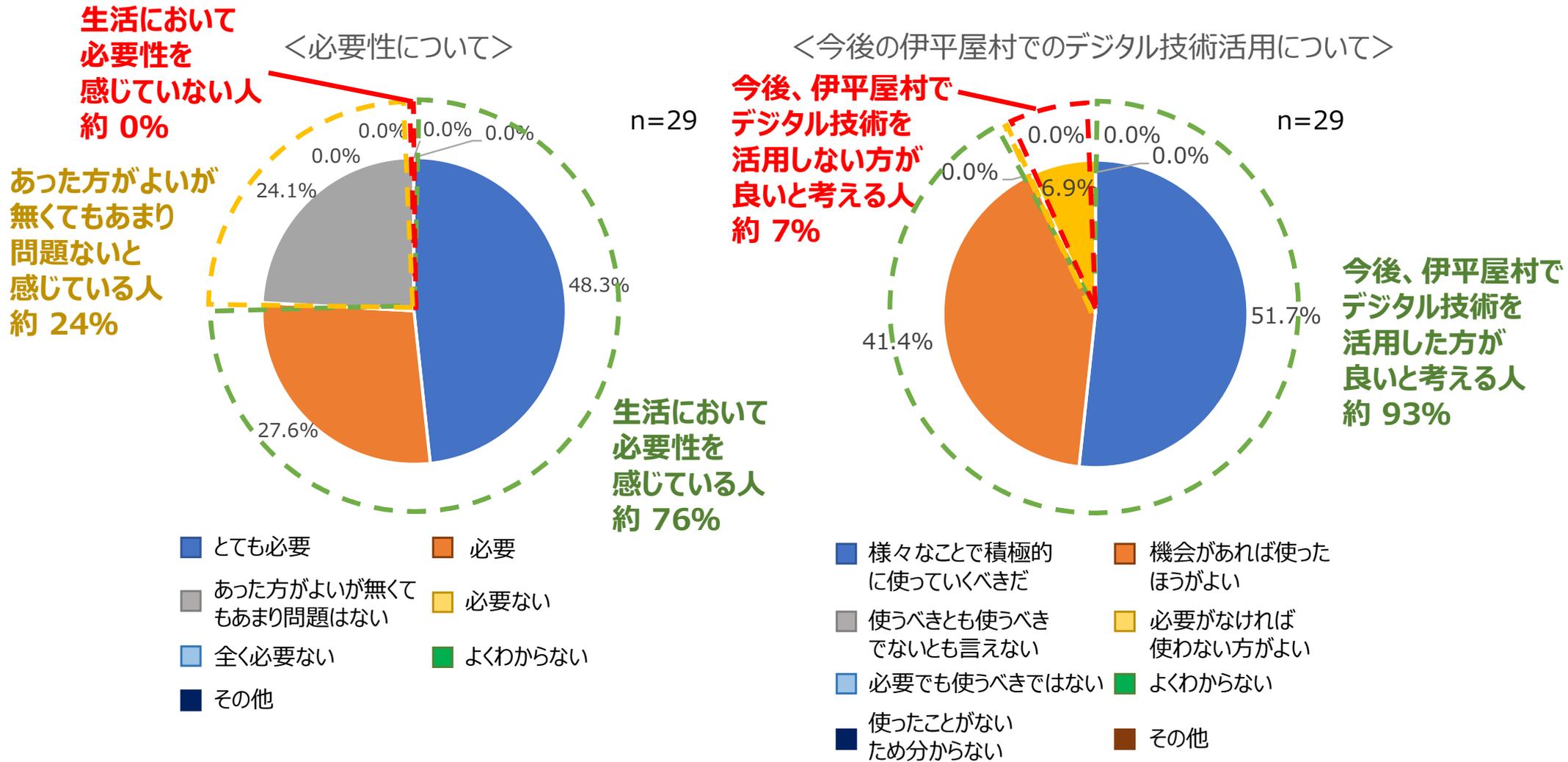
4. 学校でのタブレットやインターネットの利用の効果について



- 「必要な情報が入手しやすくなった」、「自分の学びたいことを学びやすくなった」と答えた生徒の割合が高く、個性を伸ばす自立的な学びを促進する環境の下地が形成されつつあると言える。
- 「周りの学友と一緒に学びやすくなった」と答えた生徒の割合が約17%と比較的低くなっている。「主体的・対話的で深い学び」を促進するためにも、学び合いを促進する取組を強化する必要があると考えられる。

5. デジタル技術についての意識調査

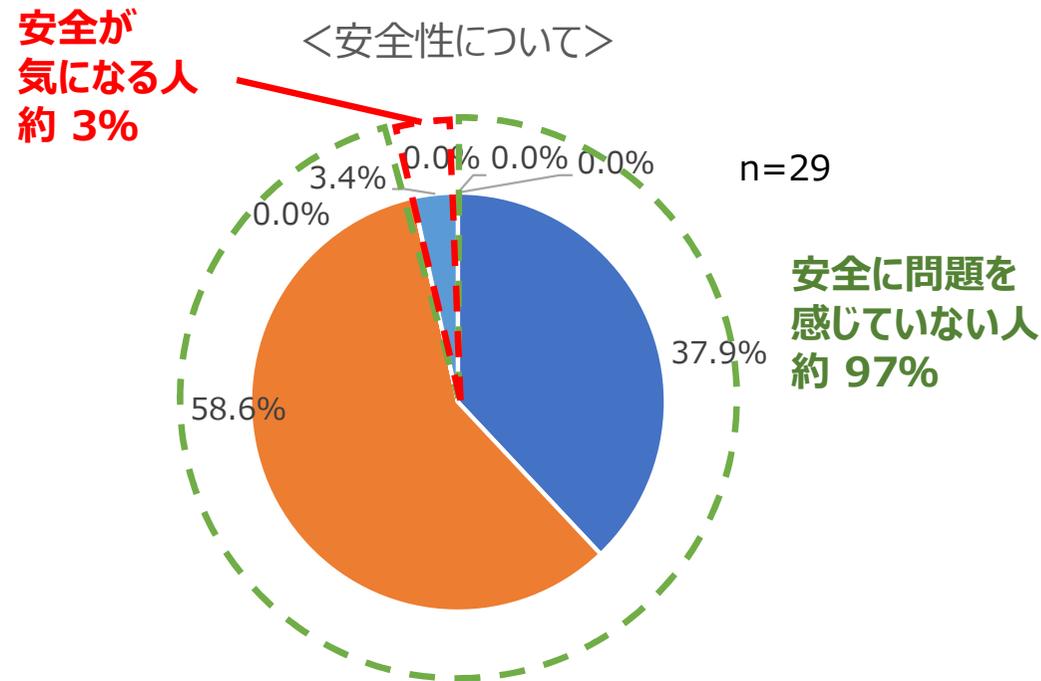
1. デジタル技術について感じていること



➤ デジタル技術の必要性について
 多くの生徒（約 76%）が必要性を感じている一方で、あった方がよいが無くてあまり問題ないと感じている人（約 24%）も一定程度いた。

➤ 今後のデジタル技術の活用について
 ほぼ全ての生徒（約 93%）が今後、伊平屋村でデジタル技術を活用した方がよいと感じている。

1. デジタル技術について感じていること (つづき)

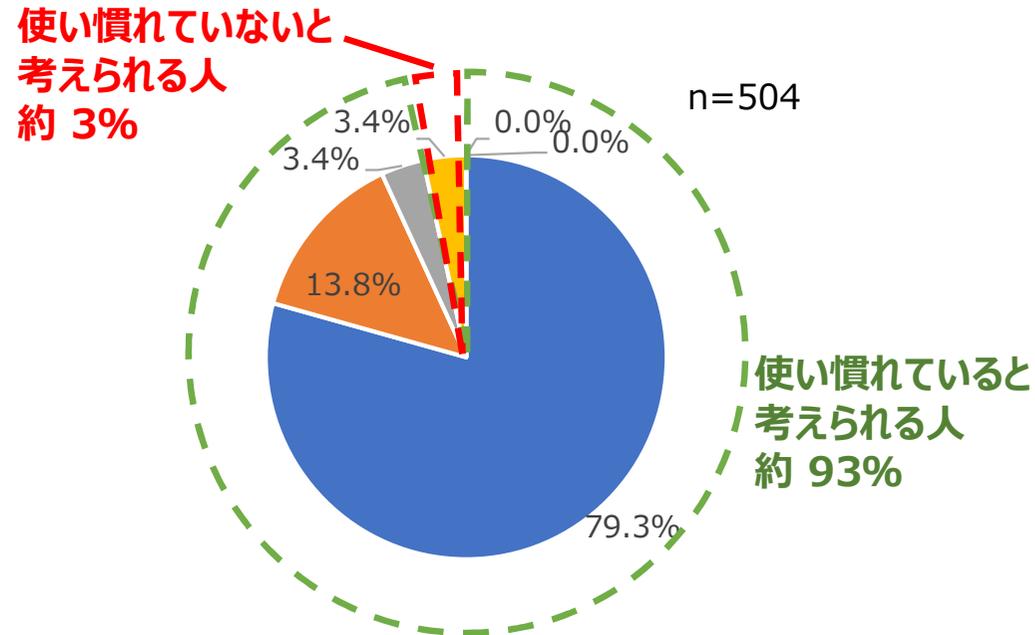


- 安全に全く問題を感じていない
- 安全は気にならない
- 安全が大いに気になる
- 使ったことがないため分からない
- 気を付けて使えば安全に問題ない
- 安全が少し気になる
- よくわからない
- その他

➤ デジタル技術の安全性について
ほぼすべての生徒（約 97%）が、安全に問題を感じていない。

6. インターネットの利用について

1. インターネットの利用状況について



- 日常的に利用している。(ほぼ毎日)
- たまに利用している。(週に数回程度)
- あまり使わない。(月に数回程度)
- ほとんど利用しない。(年数回程度)
- 利用してみたいが、利用していない。
- 利用する気はない、または、よくわからない。

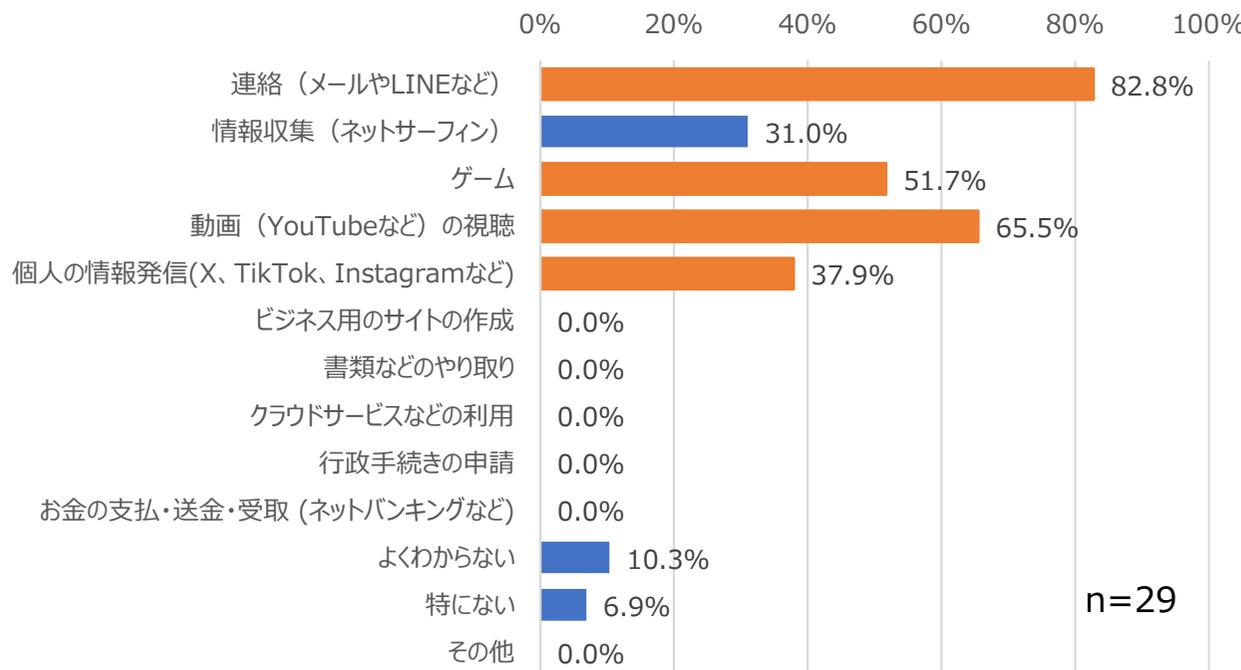
- インターネットの利用状況について
ほぼすべての生徒(約93%)が、インターネットを使い慣れていると考えられる。

7. インターネットの利用内容について

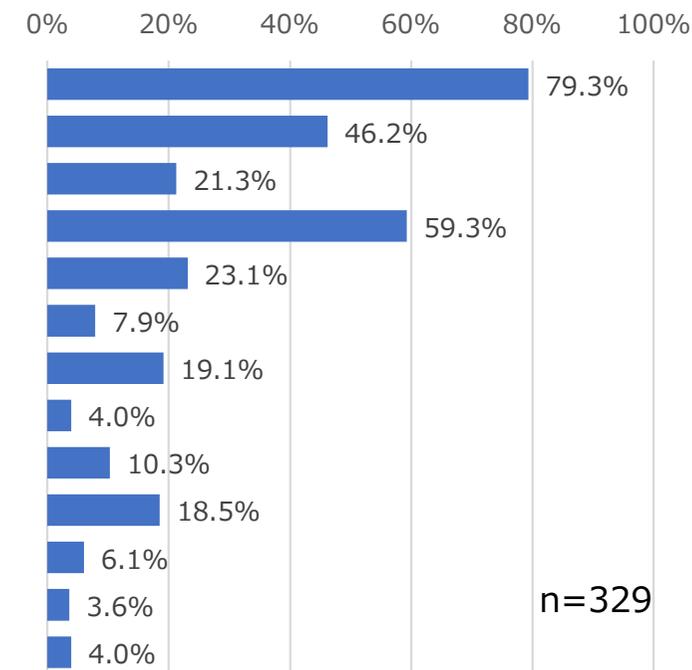
1. インターネットの利用目的について

インターネットの利用目的は以下のとおり。

中学生へのアンケート結果



高校生以上へのアンケート結果



左図は、中学生のインターネットの利用目的をまとめたグラフである。

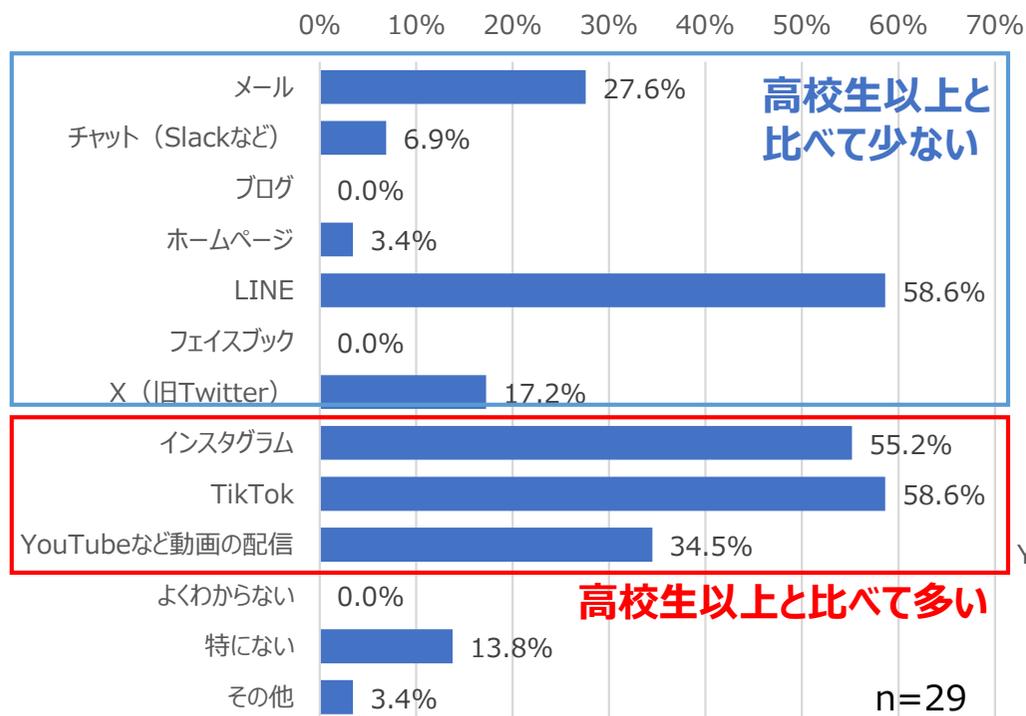
中学生のインターネットの利用目的として、連絡 (メールやLINEなど) が最も多く (82.8%)、次いで、動画 (YouTubeなど) の視聴 (65.5%)、ゲーム (51.7%)、個人の情報発信(X、TikTok、Instagramなど) (37.9%) が多かった。

インターネットの利用目的として、従来通り連絡 (メールやLINEなど) が多いが、動画の視聴やゲームを目的とする利用も半数以上あり、娯楽目的の利用も多くなっている。また、個人の情報発信(X、TikTok、Instagramなど)を行っている生徒も一定数あり、情報セキュリティおよび情報モラル教育の徹底が重要であると考えられる。

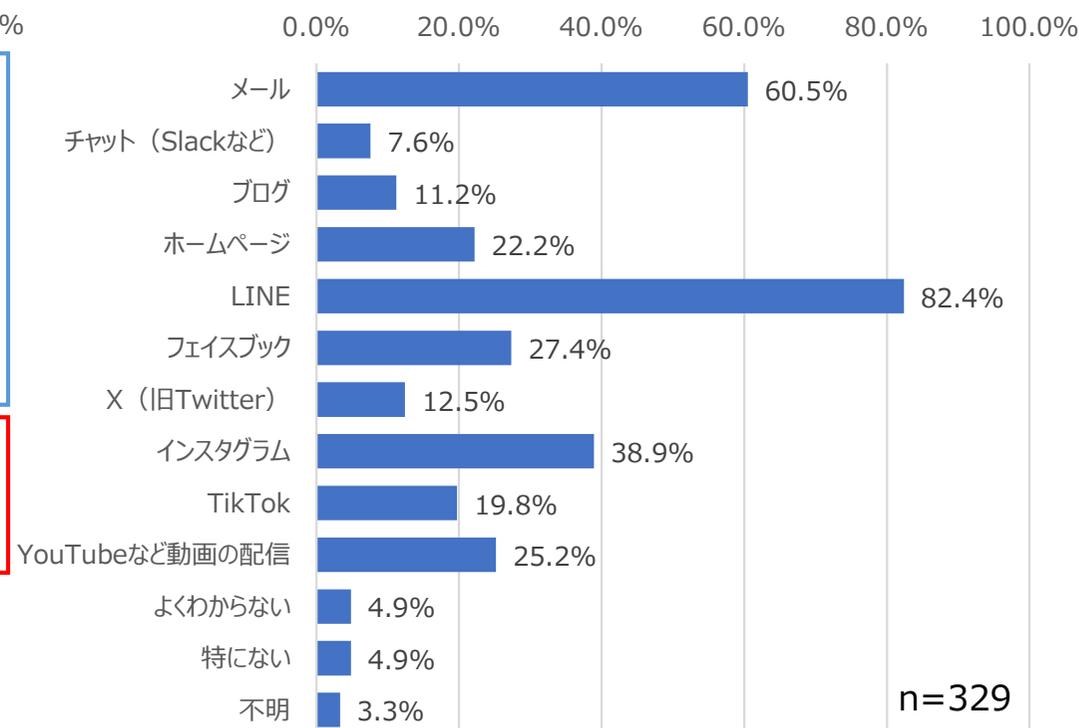
なお、参考として、右図に、高校生以上のインターネットの利用目的をまとめたグラフを掲載した。

2. 利用したことのある情報収集・発信、交流のためのサービスについて

中学生へのアンケート結果



高校生以上へのアンケート結果



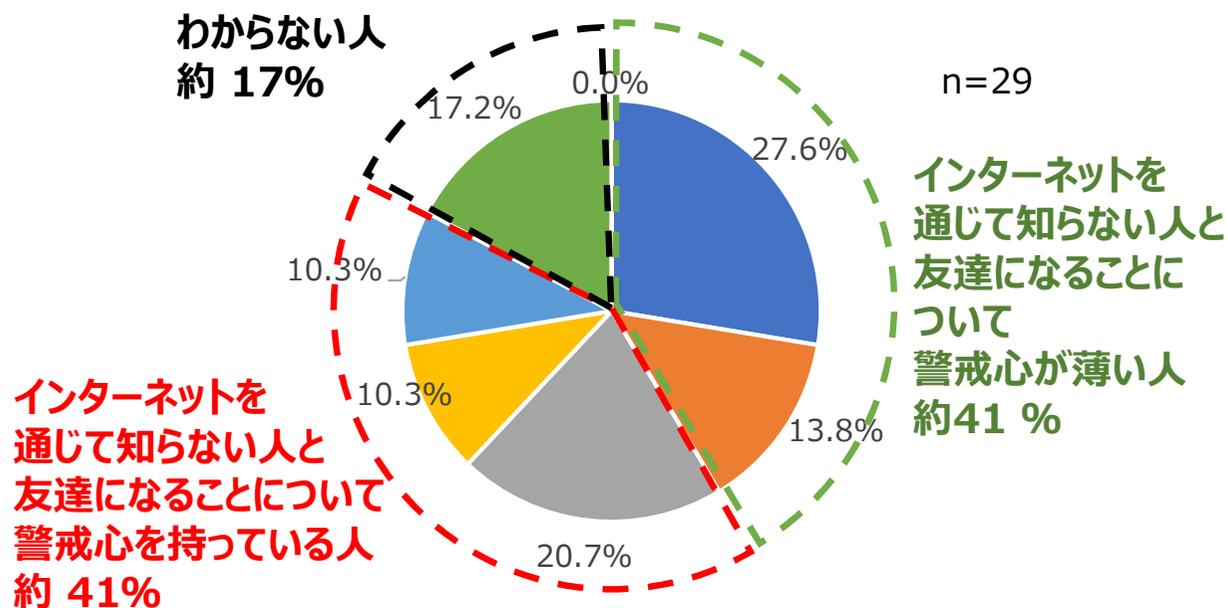
左図は、中学生の、インターネットを通して利用したことのある情報収集・発信、交流のためのサービスについてまとめたグラフである。

中学生がインターネットを通して利用したことのある情報収集・発信、交流のためのサービスとして最も多かったのは、LINEとTikTokであり、その利用率はともに58.6%だった。次いで、Instagram（55.2%）やYouTubeなど動画配信（34.5%）であり、メールの利用率は27.6%にとどまった。

中学生への連絡は、LINEが最も有効であり、場面に合わせてTikTokやInstagramも有効であると考えられる。

なお、参考として、右図に、高校生以上のインターネットを通して利用したことのある情報収集・発信、交流のためのサービスをまとめたグラフを掲載した。

8. インターネットで知らない人と友達になることについて

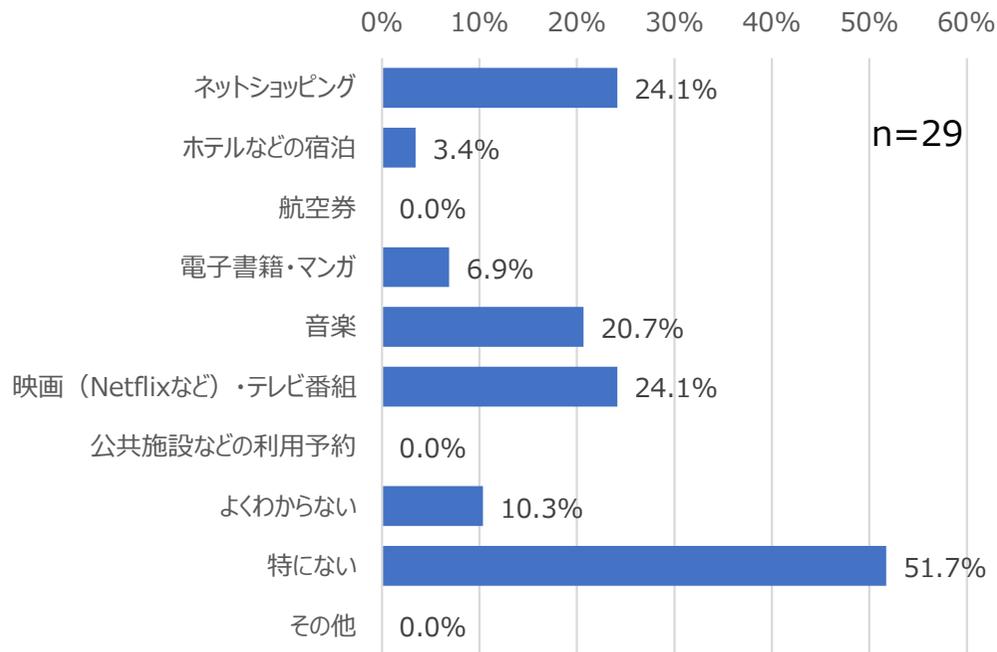


- 全く抵抗感がない
- どちらかと言えば抵抗感がない
- 抵抗感はないがすぐに信用はしない
- どちらかと言えば抵抗感がある
- とても抵抗感がある
- よくわからない
- その他

- インターネットで知らない人と友達になることについて
インターネットを通じて知らない人と友達になることについて警戒心が薄い人の割合は41.4%であった。

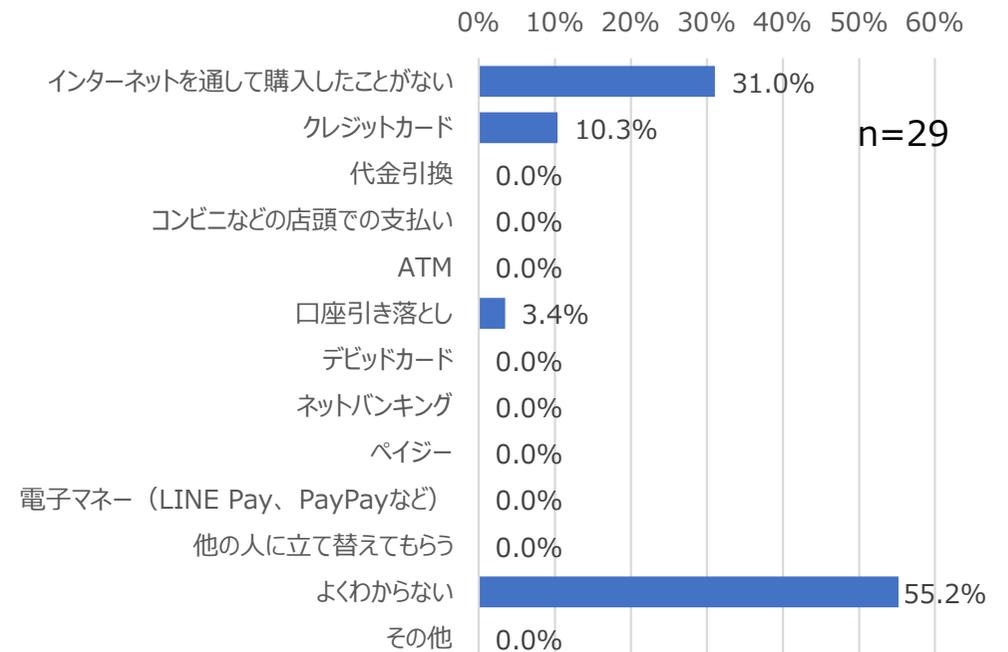
9. 予約・購入に関するサービスの利用について

1. インターネットを通して利用したことがある、予約・購入に関するサービスについて



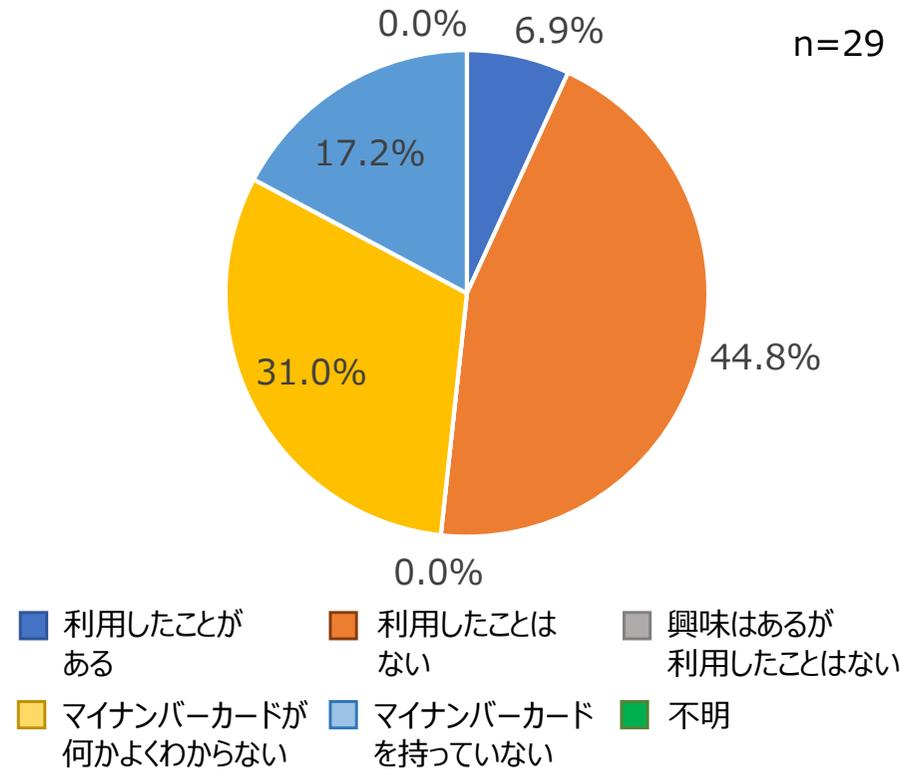
ネットショッピングと映画 (Netflixなど)・テレビ番組の利用率 (24.1%) が最も高く、次いで、音楽の利用率 (20.7%) が高かった。一方、特にないと答えた人は、51.7%であり、半分以上がインターネットを通じた予約・購入を利用したことがないことが分かった。

2. インターネットでの購入時の主な支払い方法について (単数選択)



インターネットを通して購入したことがないと答えた人は31.0%であった。また、よくわからないと答えた人も55.2%おり、総じて、直接本人がインターネットを通して購入することが少ないことを示唆していると推測される。

10. マイナンバーカードの利用状況について



- マイナンバーカードを利用したことがある生徒はほとんどおらず（約 7%）、マイナンバーカードが何かわからない生徒も約3割いることがわかった。
デジタル社会のパスポートとされるマイナンバーカードについて知っておくことは重要であるため、周知のための取組が重要であると考えられる。

※総務省発表によると、令和6年6月末時点での、伊平屋村におけるマイナンバーカードの交付状況は74.3%。

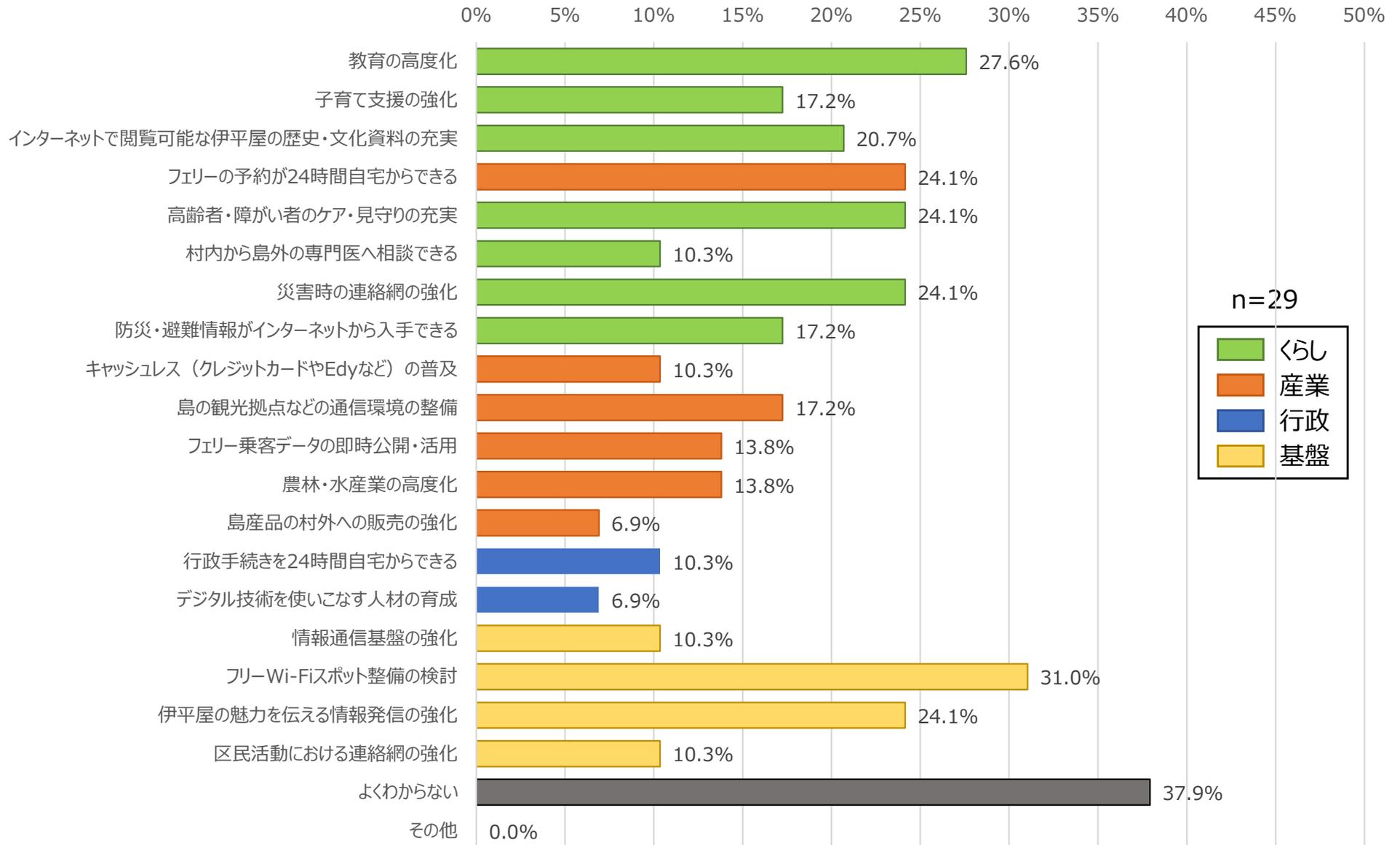
伊平屋村DX推進計画 村民アンケート まとめ

項目	アンケート分析結果
情報通信機器の 所有率	中学生のスマートフォン所有率は、約6割で、スマートフォン、ケータイ電話、パソコン、タブレット端末の全てを所有していないのは約1割であった。ただし、学校では1人1台タブレット端末を配布しており、情報通信端末の扱いについては慣れていると考えられる。
インターネットの通 信回線について	インターネットの通信回線について、不満を抱えている人はほとんどおらず、概ね満足しているという結果が得られた。ただし、回線の接続に問題を抱えている人（「そもそもつながらない」「通信がよく切れる」の合計）が約20%いるなど、自宅におけるインターネット環境に格差が生じないように、インターネットの活用の実態や必要性をさらに明確化したうえで、必要に応じて対策を検討する必要がある。
学校でのタブレット やインターネットを 利用した授業につ いて	<p>学校におけるタブレットやインターネットの利用については、前向きにとらえられている。</p> <p>「必要な情報が入手しやすくなった」、「自分の学びたいことを学びやすくなった」と答えた生徒の割合が高いことは、インターネットを活用した個性を伸ばす自立的な学びの下地の形成に効果があったと考えられる。</p> <p>「勉強以外で先生方と交流がしやすくなった」と感じる生徒が一定数いることも、勉強に限らない個別最適な指導の強化に効果があったものと考えられる。</p> <p>今後は、若干名存在する、インターネットなどの利用に難しさを感じている生徒へのサポートや、双方の総合的な学習の質を高める「学び合い」を促進する取組を強化する必要がある。</p>
デジタル技術につ いての意識調査	<p>デジタル技術の利用について、生活に必要であると答えた生徒は約76%、今後、伊平屋村でデジタル技術を活用した方がよいと考える生徒は全体の9割を超えており、デジタル化/DXへの期待は高いと言える。</p> <p>総じてインターネットの利用における安全性について問題を感じていない生徒が多いことから、インターネットの利用に心理的な障壁が低いと言える一方で、情報セキュリティや情報モラルについての教育も十分行う必要があると言える。</p>
インターネットの利 用について	<p>インターネットを週に数回程度使う人が、9割を超えており、ほとんどの生徒がインターネットを十分使い慣れていると言える。</p> <p>インターネットの利用目的として、従来通り連絡（メールやLINEなど）が多いが、動画の視聴やゲームを目的とする利用も半数以上あり、娯楽目的の利用も多い。また、個人の情報発信（X、TikTok、Instagramなど）を行っている生徒も一定数いることや、インターネットを通じて知らない人と友達になることについて抵抗感が薄い人が約4割いることから、情報セキュリティおよび情報モラル教育を徹底することが重要である。</p> <p>インターネットを通じた予約・購入をしたことがある生徒は、半分以下であるという結果が得られた。</p>
マイナンバーカード について	<p>総務省発表によると、令和6年6月末時点での、伊平屋村におけるマイナンバーカードの交付状況は74.3%であった。</p> <p>今回の調査では、マイナンバーカードを利用したことがあると答えた中学生の割合は6.9%でほとんどいなかった。利用したことがないと答えた生徒は44.8%で半数弱おり、マイナンバーカードが何かよくわからない生徒が31%いた。マイナンバーカードを持っていない人は17.2%であった。</p> <p>デジタル社会のパスポートとされるマイナンバーカードを周知するための取組が必要であると考えられる。</p>

11. デジタル技術への期待について

1. デジタル技術を使って実現して欲しいこと

伊平屋村DX推進計画の骨子の施策に基づき作成した項目について、中学生に将来実現したいこと全てを選択して頂いた。その結果を下にまとめる。



■ デジタル技術を使って実現して欲しいこと

「くらし」「産業」「行政」「地域」ごとに、実現して欲しいことの上位を下表にまとめた。

分野	分類	実現して欲しいこと	備考
くらし	教育	教育の高度化	
	福祉	高齢者・障がい者のケア・見守りの充実	
	防災・減災	災害時の連絡網の強化	
産業	フェリーの予約	フェリーの予約が24時間自宅からできる	自宅からの予約だが、現在、フェリー予約システムの構築は、産業分野の施策のため、産業に分類。
	観光	島の観光拠点などの通信環境の整備	
行政	—	—	行政分野の取組について選択した数が少ないため、採用を見送った。
地域	フリーWi-Fi	フリーWi-Fiスポット整備の検討	
	情報発信	伊平屋の魅力を伝える情報発信の強化	